



学友会 会報

第30号

中日本自動車短期大学学友会事務局

〒505-0077 岐阜県加茂郡坂祝町深萱 1301

TEL (0574) 26-7121 (大学内)

URL▶<http://www.nakanihon.ac.jp/gakuyu/> E-mail▶gakuyu@nakanihon.ac.jp



来年（2017年）

中日本自動車短期大学“開学五十周年”

学友会会長挨拶



学友会会長
神谷康雄

中日本自動車短期大学学友会の皆様
こんにちは、日頃よりご協力賜り厚く
御礼申し上げます。

さて、母校は1967年設立し、50周年を迎え、歴史と伝統を誇る大学
になり学友会としまして、大変嬉しく
思います。50周年は、大きな節目で
あり、通過点です。

将来へ向かい学友会は皆様のご協力を
戴き、親睦を計り、母校の発展に寄
与して参ります。
どうぞ宜しくお願い申し上げます。

神野学園理事長

中日本自動車短期大学学長挨拶



学長
山田弘幸

学友会会員の皆様には平素から本学の教育に深いご理解を頂き、また、多大なご支援を賜り厚く感謝申し上げます。今年も5月の学友会総会懇親会に出席させて頂きましたが、懐かしいOBの方々の昔話やご活躍の近況を聞くに付け、卒業生の皆様こそが本学の財産であると改めて思う次第であり、心が引き締められる思いでありました。

ご承知のように本学を取り巻く環境は少子化、若者のクルマ離れと大変厳しい状況にあります。また、自動車産業界は人材不足であり、国土交通省、自動車産業界、自動車整備士養成教育機関の産官学が一体となり自動車整備士人材確保・育成推進協議会を設置し、その確保に躍起となつているところであります。

そして、自動車技術に目を向けますと、一昨年究極のエコカーと言われる水素を燃料とする燃料電池車「MIRAI」が販売され、昨年の東京モーターショーでは、その水素燃料電池車や電気自動車といった電動化技術、自動運転技術などを中心に環境と安全技術の集大成を世界に向けて発信しました。人工知能化技術と電動化技術を中心に、ここ数年のうちに市販することを前提とした新技術が目立っています。日産自動車は自動運転モデルを初めて公開し、ホンダも2020年の高速道路上での実用化を目指していることを明言しました。燃料電池車においてもホンダが来年発売、また、トヨタ自動車はレクサスへも投入します。まさに世界のクルマの技術革新を日本がリードしています。

このような状況の中、本学が来年50周年を迎えるにあたり次に掲げるような人材を育成したいと願っております。

日本の自動車産業がこれからも世界の先頭を行くために、自動車工学の基礎をしっかりと習得し、「ものづくり」の楽しさを知り、そして、それを追求していく人材を育成してまいります。トヨタ自動車は、「自動車は成熟産業ではない。世界的に伸びが期待できる成長産業だ。」として「日本のものづくり」の重要性を鼓舞しています。本学で学ぶ学生には、将来の日本の技術力を背負って立つ気概を持ち、また、技術を持つて世界へ飛び出すほどの目標を持つ人材に育てたいと思います。

50周年記念事業 寄付のお願い

中日本自動車短期大学 事務局長
太田 悟美

中日本自動車短期大学は1967(昭和42)年4月20日に自動車技術者育成のための高等教育機関として開学し、平成29年をもって創立50周年を迎える事となりました。此れもひとえに卒業生の皆様方のご支援、ご協力の賜物と心より厚く御礼申し上げます。

建学の精神「技術者たる前に良き人間たれ」の下、創立以来、人間性豊かな技術者を育成し約25,000名の卒業生を自動車業界に送り出しています。

一方、少子化の加速や若者の「クルマ」離れによる入学者の減少に伴い、本学を取り巻く環境はますます厳しさを増しております。本学では、教職員一丸となって、教育の質向上、学生募集の強化及び業務の合理化等の取組を一層進め、安定した財政基盤を維持し、更なる50年に向け、社会に貢献できる人材を送り出すために全力を尽くす所存でございます。

この節目の年を迎えるにあたり、老朽化した管理棟及び教育施設を整備し、学生が満足できる教育環境を作り上げ学生募集に繋げてまいります。しかしながら、本事業は、卒業生の皆様方のお力添えなくしては、実現する事ができません。

つきましては、趣旨にご賛同いただき、温かいご支援を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

なお、寄付金募集の内容及び申込方法は同封の「創立50周年記念事業趣意書・募金のご案内」をご参照いただければ幸いに存じます。

モータースポーツ教育への取り組みについて

MSE学科長 青木 恒夫

NACモータースポーツエンジニアリング学科（以下MSE学科）では、2015年度より産学連携事業として、パシフィックレーシングチームをエンタラントにSUPER GTレースに参戦しています。

これまでも一流のレーシングチームのピット研修に学生を派遣してきた経緯はありますが、本事業ではそれとは別に学内にSUPER GTファクトリーを設置し、実際に学生とともにMcLaren P1や12Cを整備し参戦しています。本学ファクトリーでの整備からサーキットでのピット設営・参戦・撤収まで一貫した教育が行えることで、学生のモチベーション、スキルアップに大いに貢献しています。2016年度からは、ガルフレレーシングチームの参加により、車両をPORSCHE 911 GT3Rに変更、更に学生をチームクルーの一員として起用する学内インターンシップ制度を設けるなど、充実したモータースポーツ教育を行っています。

MSE学科ではレーシングカーの基礎を学ぶため従来からSUPER GTを教育



に取り入れています。2015年度は新車両を一台追加しました。新車を購入したことで、十六歳の秀逸ドライバー阪口晴南選手を迎える機会に恵まれたこともあり、F1の前座戦であるドリームカップレースに初参戦することになりました。結果は幸運にも優勝の栄冠を勝ち取ることが出来、更に12月に行われたSUPER GT日本一決定戦でも優勝することが出来ました。続けて二度の優勝を経験し、学生、指導にあた



つてきた教員共々感無量のシーズンオフを迎えることが出来ました。学生の満足度を上げるため、設備・教材の充実は勿論ですが、SUPER FORMULA、全日本ロードレース、D1等へのピット研修、有名チームへの長期インターンシップ、鈴鹿サーキットでの技術オフィシャル体験などの現場体験も充実させています。更にプロのメカニックやエンジニアを教員に迎え、実践的なノウハウを伝承する教育にも力を入れています。



今後、これらの専門教育を受けた卒業生がレース業界で活躍し、サーキットでも中日本自動車短期大学の名声が届かんことを夢見る日々です。ご声援を宜しく願います。

恩師からのメッセージ



OB (1期生)
元教授
脇 俊隆

学友会会報の発刊も年を重ねて第30号となり活動の重みも増しています。学友会の皆様には日々活動に参加され

色々苦勞頂き感謝申し上げます。また、来年は開学五十周年という記念すべき年を迎えることになりませんが、教育の大計は百年と言われるのでまだ道半ばでこれから更に発展が望まれるところ です。

私は、開学以来この学校に四十五年奉職し数多くの卒業生に接し、卒業後様々な道に進み社会で大いに活躍されている話や便りを聞くと大変嬉しく思っています。しかし、近年の自動車産業は、この学校の開学時代と大きく変わり自動車の社会的価値が大きく問われ新しい価値観が求められています。こうした状況の中で私自身が学生諸氏にその対応できる知識・技術を身に付ける教育を実現出来たかどうか心配しております。そうした中で現在も退職後、非常勤として本学の教育の一助を微力ながら行っています。時間があがる方は、是非本学にお立ち寄り下さい。

支部便り 愛知県支部

愛知支部 事務局 森 光弘
愛知県支部総会・同窓会開催しました。

平成27年10月4日(日) 19時

名古屋テレビ塔Fパークバンケットにて愛知県支部の同窓会及び懇親会が開催されました。

加藤愛知県支部長より支部の現状報告と今後の支部活動の強化について報告され、その後懇親会が行われました。学校紹介ビデオや中日本の過去と現在が映し出され、当時を思い出されたことと思います。会場は眼下に名古屋で一番の繁華街が広がり、会場の雰囲気も皆さんには好評でした。参加者も若いOBが増え、参加総数は88名でした。

支部便り 岡山県支部

岡山県支部 支部長 森山 学園創立50周年を前に、紙面での会報を発行するという事で、岡山県支部の活動を紹介させていただきます。学友会での事業計画で、支部活動の活発化が掲げられ、2013年に県北部 津山市にて岡山県支部総会を開催しました。神谷会長、岡田事務局長にも来ていただき、14名出席でした。県北部で集まる機会はなかったもので、終了予定時刻を1時間延長するほど賑やかで有意義な会となりました。2014年は岡山市内で開催。神谷会



学友会

長、山田学長、岡田事務局長、鹿子嶋先生、森先生にきていただき、24名出席の会となりました。また、支部としての役員も選出し、体制を整えることとなりました。

2015年は倉敷市内で開催。神谷会長、山田学長、清水先生、鹿子嶋先生にきていただき、20名の会となりました。記念撮影した写真は、地元の山陽新聞の集い欄に掲載して、少しでも会員の方の目にふれるようにしました。

その後の役員会で、支部総会は岡山市内で、同窓会として県内各地で、年2回開催としました。本年も9月3日に支部総会開催が決定しております。

この記事を読まれた会員の皆様方、一人でも多くの参加をお待ちしています。

中国同窓会

平成27年8月末に中国の上海、新疆にて中国同窓会を開催しました。

これは、大学の教育懇談会を中国で開催する機会に合わせ、学園上海事務



所の郭さんの呼掛けで実現しました。

上海会場で21名の参加。新疆会場では9名の参加がありました。平成5年卒業の者から、卒業したての者まで年幅広くOBが集いました。中国国内において日系企業で活躍しているOBが多かったです。懐かしい恩師との再会もあり、懇親会は大いに盛り上がりました。

新任教員紹介



長谷貴道
学友会の皆様、私は平成27年6月より

実習教員として本学でお世話になることになりました。

私は本学の卒業生ではありませんが、社会に出て約6年半ほど日産系ディーラーにてメカニックとして勤務し、いろいろな技術を習得し故障診断等も数多く経験してきた他、自動車検査員としての業務や営業所での新人育成等も行ってきました。ディーラー退職後は他の整備会社にて技術の幅を広げ、その後異業種につき経験の幅を広げてきました。

まだまだ教育機関としての大学の環境や学内の事など、分からないことが多く戸惑う日々ですが、今までの経験や知識を活かし、人員不足が叫ばれる自動車業界の戦力となり得る人員を社会へ送り出せるような教育を目指し努力していきます。

最後に、学友会の皆様の益々のご活躍とご繁栄を祈念申し上げます。



後藤寛宣
学友会の皆さま、はじめまして。昨年12月

から本学でお世話になることになりました。後藤と申します。

私は平成10年に岐阜トヨタ自動車株式会社に入社いたしました。整備士として日々車に携わってきました。現場で大変でしたけど自分の中でも多くの技術を習得できました。故障診断や修理、後輩メカニックの育成と色々なことをやらせていただき整備士として、人として成長しました。2年程、営業もやらせていただいたので人と接することも学びました。

18年間の経験を活かし学生の皆さんに自動車整備とは、現場の作業とはこういうものだと言うことをしっかりと伝えこれから卒業し自動車業界で活躍していく皆さんの力になりたいです。学生の皆さんと一緒に私自身も勉強し1日でも早く1人前の教員になります。

学友会



学友会
の皆様、私
は平成二
十年に本

学を卒業し、トヨタ系ディーラーで三
年間、町工場で四年間働いてきました。
その後、平成二十七年十一月より本
学でお世話になることになりました。

ディーラー勤務中には、メカニック
として車検整備からエンジンオーバー
ホールなどの重整備まで様々な作業を
経験しました。町工場では国産車から
輸入車まで、自動車整備は勿論、中古
車販売、板金、塗装など、ディーラー
では経験のなかった多種多様な作業を
させていただいています。

自分も本学で学んだ知識を活かして
働いてきましたが、実際の作業では経
験や勘、発想力などが必要でした。こ
れらの経験を活かし、学生に技術や経
験を伝えていきたいと思えます。
また、学生時代に教えていただいた
先生方のように、学生教育、学生指導
に励んでいき、早く一人前の教員にな
れるように努力していきます。

最後に、学友会の皆様の益々のご活
躍とご繁栄を祈念申し上げます。

在学生便り

学生自治会 会長



自動車工学科二年 加藤 貴大

中日本自動
車短期大学に
入学した当初
は、初めての
一人暮らしや

自動車についてそんなに詳しくなかつ
たので、生活に慣れることができるか、
また、授業についていけるか不安でい
っぱいでした。しかし先生方や仲間た
ちの協力を得て、不安が少しずつ解消
されていきました。専門科目に授業は
見るもの、聞くこと、触れるものすべ
てが新鮮でとても楽しかったです。特
に分解・組み付け後、エンジンがかか
った時は感動しました。

二年になり、三月の登録試験が迫る
中、国家二級整備士の資格取得に向け
てやるべき事が多いので、一年生で学
んだことを基礎としてさらに自分自身
を高めていく必要があります。今年
は自短祭が五十回目ということもあり学
業との両立が大変ですが、仲間たちと
乗り越えてみせます。

残り少ない中日本自動車短期大学で

の学生生活で先生方からできるだけ多
くのものを得て、仲間たちと切磋琢磨
し、楽しく充実した日々を送り将来の
自分のために使いたいです。

OB近況

自動車工学科

第十四期生 森島 広良



学友会の
皆様、私は
母校を昭和
五十七年に
卒業し、名
古屋スバル自動車に入社して早いもの
で三十四年が経ちました。メカニック
として配属され、色々な職種を経験し
ながら、現在は管理本部に在籍して、
日々数字と闘っています。

数年前、管理本部という立場で卒業
以来、訪ねていなかった母校に数十年
ぶりに伺うことになりました。学生時
代に通いなれた道も時が経ち、変化は
しているものの、無意識のうちに母校
に着いたことを憶えています。

母校の門をくぐった瞬間、あつと言
う間に気持ちは学生時代にタイムスリ
ップし、記憶が走馬灯のように駆け巡
りました。学友会の方にも私と同じで、

母校を訪ねる機会もなく数十年が経ち
一度も来校されていない方もいらっし
やるのではないのでしょうか。

来年は母校も創立50周年と聞いてお
ります。お近くに来られた折には、少
し足を延ばしてお立ち寄り頂きたいと
思います。

話は変わりますが、縁があり、学友
会幹事をさせて頂いています。私の
所属する愛知県支部では、初秋の頃に
同窓会を開催しています。年齢も立場
も違いますが、同じ母校出身であるこ
とで話が弾んで毎年盛り上がっていま
す。同窓会「いいものですよ」是非、
同級生をお誘いの上、ご参加をお待ち
しております。

最後に、学友会の皆様のますますの
ご活躍とご発展を祈念申し上げます。

学内風景





実習服の変遷



現在の実習服



上着の色が毎年変わる



つなぎ

学友会

登録試験結果

技術研修課

平成二十八年三月二十日に実施された二級整備士登録試験の結果を報告します。

第四十八期生の学生が受験しました。二級ガソリンの合格率は80.4%（全国平均77.5%）、二級ジーゼルの合格率は90.0%（全国平均93.0%）となりました。

前年度に比べて両試験とも合格率は若干上昇しています。しかしながら、二級ジーゼルにおいては辛うじて90%に到達しましたが、全国平均を下回っております。また、二級ガソリンにおいては全国平均を上回ってはいますが、合格率が90%に到達しなかったことから、尚一層の努力が必要と考えております。その対策として、今年度は早々に学業不振の学生を対象に底上げを図るため、登録試験のための補習を行っております。

次に専攻科の受験結果ですが、自動車整備士合格率95.4%（全国平均93.3%）、一級小型自動車整備80.0%（全国平均37.7%）となったことを報告いたします。

最後に、学友会の皆様の益々のご活躍とご発展を祈念いたします。

2016年度学友会総会にて



学友会事業計画

平成二十八年度

1. 総会
2. 大学近辺で開催する。
3. 学友会ホームページ
内容を充実させる。
4. 支部活動
学生募集と会員の親睦をもてる積極的な支部活動を行なう。
5. 支部活動の活発化（愛知県支部総会、岐阜県支部総会、岡山県支部総会の開催）
6. 同窓会への補助を行う。
7. キャンパス・グッズ
50周年に向けて新しいキャンパス・グッズの企画をする。
8. 進会員との交流
9. 学生自治会クラブ役員との交流会を10月中旬に予定
10. 退職者記念品
定年退職者に記念品を贈る。
11. 卒業記念品
卒業記念品として卒業証書ファイルを贈る。
12. 奨学金
在学生に対して奨学金を支給する。
（秋学期に10万円一括支給、若干名）
13. 9. 大学への協力体制
50周年記念事業への協力として、2000万円を寄付する方向で前向きに検討する。
14. 同窓生子女推薦を増やすための協力をする。
15. 広報活動で大学に協力する。
16. 大学主催のエコノパワー大会に協賛する。
17. 大学祭に協力する。
18. 10. その他
学友会会報の作成をする。

編集後記

第30号の会報をOBの皆さんに届けることができました。母校も来年、開学五十周年を迎えるに当たり、キャンパス整備も着々と行われております。学友会も開学五十周年を応援いたします。皆さんも是非応援して下さい。学友会活動は学友会ホームページにて公開しております。

<http://www.nakanihon.ac.jp/gakuyu/>

ご意見、問い合わせはホームページ「学友会へのご要望」よりお願いします。また、住所等変更があった場合も「会員情報の更新」よりご連絡して下さい。